



施設を幾度と訪問するなかで「支援への感謝の気持ちを伝えたい」というのぞみ福祉作業所の人びとの強い想いを肌で感じたデザイナーの前川雄一さんは、すべてのプロダクトにメッセージを書いたタグをつけるなど、徹底してストーリーを伝えるブランディングを提案。畠山光浩施設長をはじめ、スタッフとの話し合いを重ねて生まれたのは、「まつしろな紙から未来がはじまる」というキヤッチフレーズでした。そこには、南三陸の明るい未来への希望が託されています。

震災後、エイブルアート・カンパニーの支援によつてはじまつたアートワークショットも、現在では日常に溶けこみ、個性かな作品が次々に生まれています。自分の作品が褒められ、商品にいかされることによってメンバーの自信がはぐくまれています。さらに、作品や商品が県内外で評価され、一般の市場に流通することでメンバーやもちろん、スタッフのやりがいも大きくなっています。

そして今のぞみ福祉作業所はさらに新たなステージへと前進しています。NOZOMI PAPER Lab.というブランド開発から発展し、2015年にはメンバーの魅力と手書き紙をいかした工房 NOZOMI PAPER FACTORYとして施設全体のリブランディングを実施。さらには、南三陸の復興をめざし、南三陸きりこプロジェクトや南三陸観光協会、南三陸さんさん商店街と連携した取り組みも始動させました。「多くの人びとからいただいた温かな支援をもういちど温かな商品として届けたい」と語る畠山施設長の言葉どおり、のぞみ福祉作業所に集う人びとの思いはNOZOMI PAPERに託されます。